

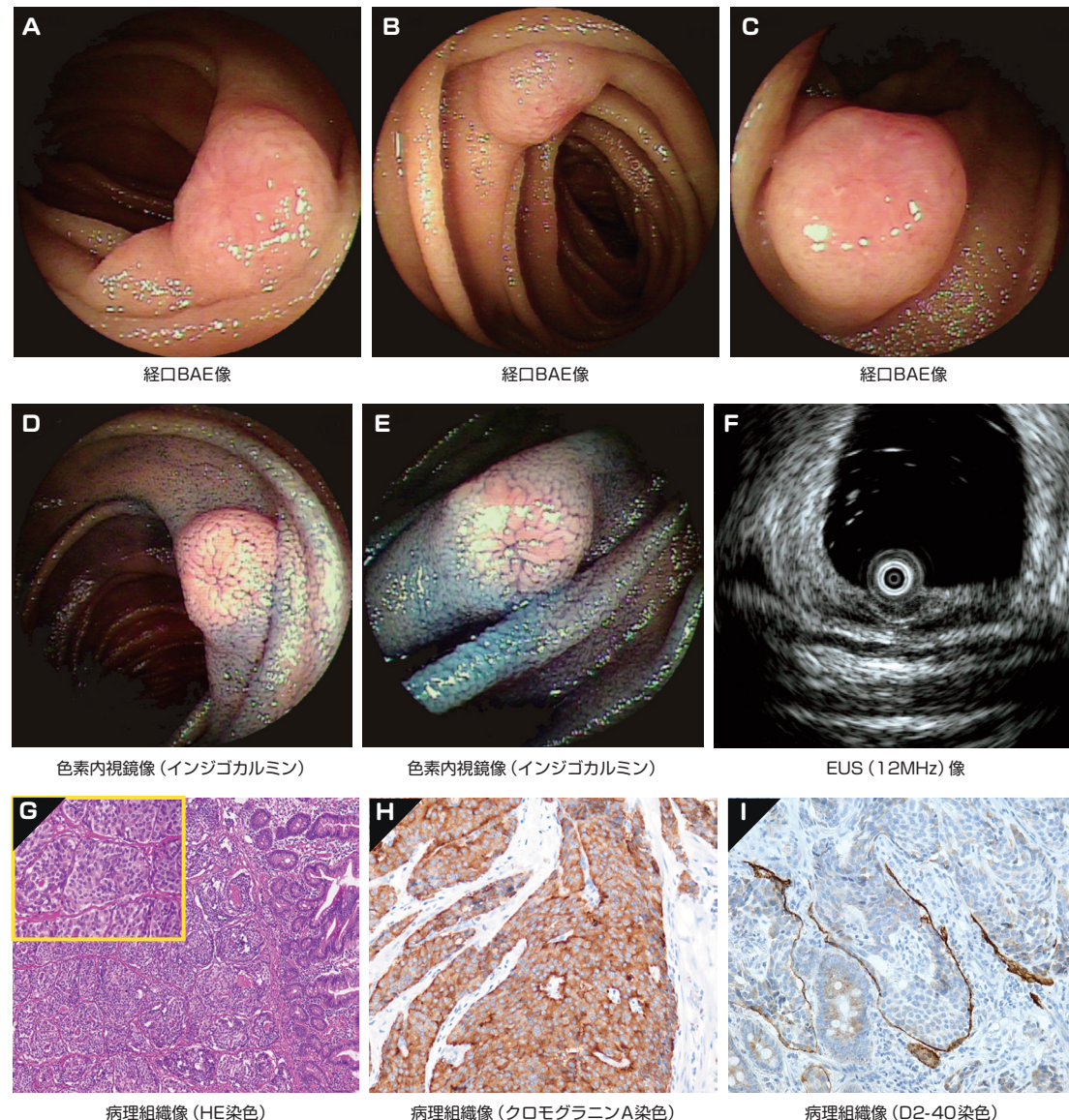
06 小腸カルチノイド(NET)

疾患の定義・特徴

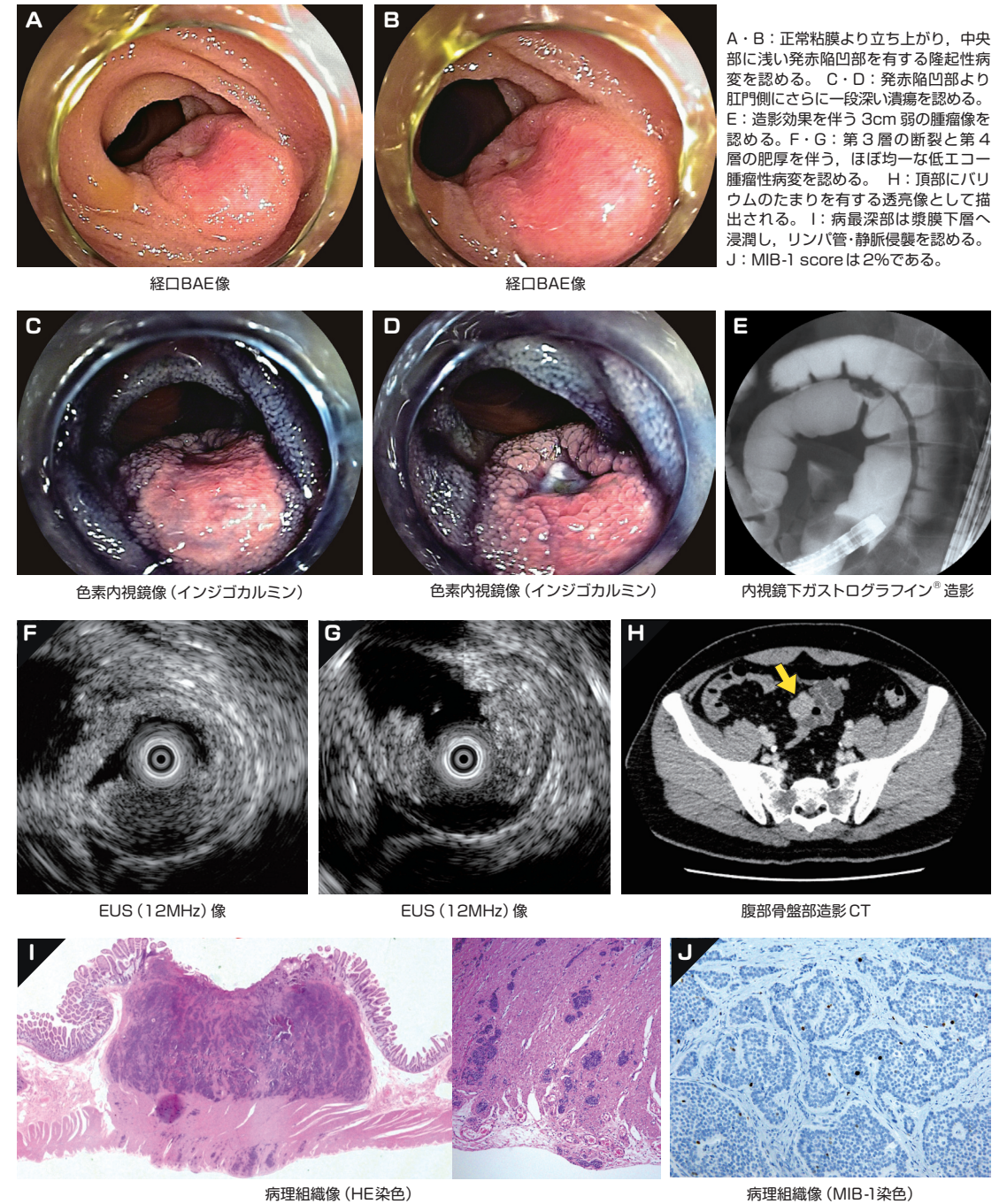
- 近年、カルチノイドは NET (neuroendocrine tumor) の疾患概念に包括されている。
- セロトニン産生などにより、カルチノイド症候群を呈することがある。
- 小腸 NET (中腸) の頻度は、欧米に比べて日本では低い。
- 小腸 NET は腫瘍径が小さくても、リンパ節転移を有する率が高い。

症例①

A・B・C：正常粘膜より立ち上がる粘膜下腫瘍様隆起を認める。D・E：中央部はびらん再生様の変化を認める。F：EUSでは第2～3層浅層に低エコー病変が認められる。G・H・I：類円核と淡好酸性胞体を有する細胞が充実性小胞巣を形成。筋板直下のリンパ管への侵襲像が認められる。



症例②



A・B：正常粘膜より立ち上がり、中央部に浅い発赤陥凹部を有する隆起性病変を認める。C・D：発赤陥凹部より肛門側にさらに一段深い潰瘍を認める。E：造影効果を伴う 3cm 弱の腫瘍像を認める。F・G：第3層の断裂と第4層の肥厚を伴う、ほぼ均一な低エコー腫瘍性病変を認める。H：頂部にバリウムのたまりを有する透亮像として描出される。I：病最深部は漿膜下層へ浸潤し、リンパ管・静脈侵襲を認める。J：MIB-1 score は2%である。

診断のポイント

- 粘膜下腫瘍様の隆起性病変として認められる。
- 腫瘍径が大きくなると、びらん・潰瘍を伴い、癌・リンパ腫との鑑別が困難である。
- 他の消化管と違い、必ずしも黄白色調が目立たず、発赤調の場合もある。
- 合併する基礎疾患に、多発性内分泌腫瘍症1型 (MEN1) などがある。

(松田知己)